

大会宣言

たたかってこそ労働組合！今こそ全労連の真価を発揮しよう！

7月の参議院選挙では「格差と貧困」を拡大し「戦争する国づくり」を急ぐ安倍政権への国民の痛烈な審判が下され、自民・公明与党が歴史的な大敗を喫し与野党逆転という新たな情勢をつくりだしました。

先の通常国会で強行採決を繰り返してきた安倍首相は、臨時国会で所信を表明した直後に、「政策を進めていくのが困難な状況になった」「党首会談を申し入れたが断られた」との理由で首相の職を辞任しました。

こうした政治的な大激動のもとで、全労連青年部第20回定期大会を開催し、全国から集まった青年の活発な討論と交流により、国民的運動の先頭に立つ労働組合の役割を確認しあい、青年部運動の発展に向けた方針を確立しました。

安倍首相は、歴代内閣ではじめて、国会の壇上から憲法改悪の意思を表明し、慎重審議を求める圧倒的国民の声を無視して、改憲手続法をすすめる国民投票法を強行成立させました。

憲法改悪の発議がねらわれる2010年を見据えながら、「戦争する国づくり」に反対する世論を集め、改憲発議を許さず、憲法を守りいかす運動と「格差と貧困」の解消をめざし、憲法をいかした地域づくりを追及する運動を積極的に地域へ出て広範な青年との共同を大きく広げていくことが重要です。

大会の討論では、どの組織でも青年の組織化が困難な状況や、新たな担い手がないなど厳しい条件での活動ではありますが、構えと創意工夫しだいでは大きな前進がつけられるという教訓が語られました。

世界に誇れる憲法9条の魅力を職場や地域で語り「憲法守れ」の世論を広げてきた仲間の報告。職場の仲間の労働実態を調査し、職場要求を基礎に労働条件の改善をめざした仲間の報告。最低賃金を1000円以上に引き上げるため街頭に飛び出して青年と対話しながら800人のアンケートを集め、格差と貧困の拡大でワーキングプアに苦しむ多くの若者の実態に向き合った、北海道の仲間の報告。仲間作りを重視し、実行委員会で企画したクリスマスパーティーの開催が、多数の青年の参加で成功した教訓を語った大阪の仲間の報告。こうした全国の仲間の豊かな実践と教訓は、大会参加者に大きな感動と元気を与えました。

「まともに生活できる仕事を、人間らしく働きたい」をスローガンに開催された「青年雇用大集会」は、低賃金・無権利状態のもとで、多くの青年が派遣や請負労働など非正規雇用の立場に身を置かれ貧困に苦しみ、またある青年は、家を借りることもできずに、ネットカフェで寝泊まりする「ネットカフェ難民」の存在を告発しました。

この集会では、働いている青年の厳しい労働環境が報告されるとともに、「おかしいことはおかしいと言える、まともな社会に自分たちの力で変えよう」と、力強いたたかいの報告がされ、若者たちや非正規労働者のたたかいによって、世論は変わること確信と展望を持つことができました。

たたかってこそ労働組合であり、働きがい、生きがいを求めるとともに、格差・貧困の解消のために今こそ全労連の真価を発揮しましょう。

今後も組織を超えた交流と、未組織の青年たちとも共同を広げ、日本国憲法を守り、青年が自立して働き、生きていける職場と、社会をつくるため奮闘します。

以上、宣言します。

2007年9月16日
全国労働組合総連合青年部
第20回定期大会